



今回は、教育支援で活用できる ICT 機器について紹介をします。子どもの困り感に合った活用方法も合わせて紹介しますので、授業で活用してください。

どうして特別支援にて ICT 機器を活用するのでしょうか…

障害の状態や特性やそれに伴う学びにくさは多様かつ個人差が大きく、「特別な支援」が必要

身体の障害による
学習上の困難

- 視覚障害（見えない・見えにくい）
- 聴覚障害（聞こえない・聞こえにくい）
- 肢体不自由（動けない・動きにくい）
- 病弱（病気による様々な制約）

➡**障害の特性に応じた ICT 機器や補助具の活用が必要**

知的障害や発達障害による
学びにくさや
コミュニケーションの困難

- 知的障害（理解や意思疎通が困難）
- 発達障害（様々な学びにくさ）
 - ・ 自閉症、情緒障害
 - ・ 言語障害
 - ・ ADHD



➡**理解や意思表示を支援するために ICT 機器の活用が有効**



本校の取り組みを紹介します。

絵カードタイマー（アプリ）



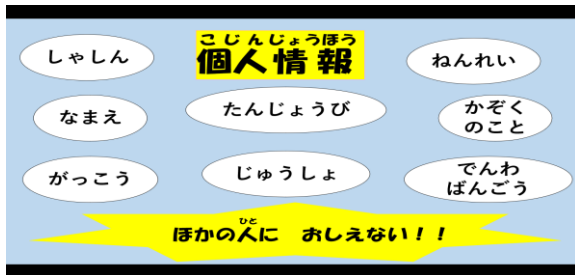
時間を意識することが苦手な子、見通しや予定が分からないと不安になる子におすすめです。何をいつまでにしなければいけないのか、見通しを持つことができます。朝や帰りの準備などの場面で時間を守って行動できるように活用できます。

Drop Tap（アプリ）



言葉で表現することが苦手な子におすすめです。視覚シンボルをタッチすることでコミュニケーションを取ることができます。また、シンボルを選択肢の代わりに使用すれば、どの教科でも活用できます。

パワーポイント



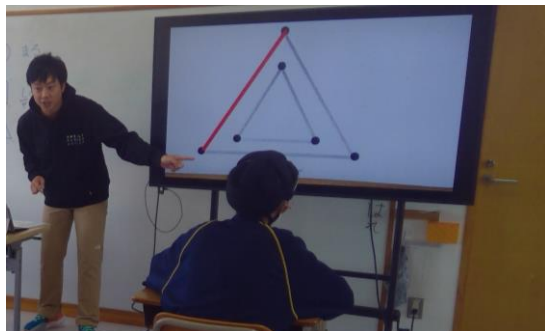
集中力が続かない子、視覚優位な子におすすめです。アニメーションで動きを付けることで、子どもが興味・関心を持ちやすいです。中学部では、「インターネットの使い方」という難しい教材でもパワーポイントを使うことで、理解を深めることができました。

画面録画



集中力が続かない子におすすめです。タブレットの使い方を説明するとき役に立ちます。検索エンジンの使い方や開きたいページを視覚的に理解することができます。また、授業の導入動画として活用することができ、音楽を付けて、工夫をすれば子どもたちの興味関心を高める効果があります。

GoodNotes (アプリ)



見ることが苦手な子や、集中力の持続が難しい子におすすめです。注目を集めやすく黒板の代わりとして使うことができます。直線を引けたり、丸や三角の図形を書けたりするので図形の学習をするときなどにおすすめです。

Actuve Arcade (アプリ)



粗大運動が苦手な子におすすめです。画面に映ったキャラクターと同じポーズを取ったり、もぐらたたきのように画面上に映るモグラに触れたりと体を動かす様々なゲームができます。高等部の自立活動でボディイメージを高めるために活用しています。

様々な発達段階の子どもがいる特別支援学校においては、タブレットなどの ICT 機器を使って学習を進めようと思っても、スムーズに扱える子とそうではない子がいます。また、使い方を伝えるのに、説明すればできる子や視覚的なアプローチがあれば理解できる子、実際に体験することで理解できる子と様々です。一人一人の発達段階や年齢をよく見定めて指導やアプローチをすることで効果的に ICT 機器を活用することができます。例えば、ひらがなの練習でタブレットを活用しようと思っても、そのためのアプリは数多くあります。子どもの興味・関心に合わせて学習内容や学習方法を調整し、その子に合う「個別最適な学び」を充実させることが大切です。